

＜愛教大活性化部門＞

愛教大生による自治体への SDGs 提言の試み

代表者 酒井 愛実（教育ガバナンスコース・4年）他 学生 11 名

1. 活動概要

近年世界的な重要課題となりつつある SDGs に基づいた地域のあり方について、現実的な課題として捉えたうえで、近隣の自治体である知立市と協力し、その知立市に対して学生の視点から取り組むべき課題とその現実的な実現方法について提言を行う。SDGs という重要な活動に向き合い、知識を深めることは近年の世界動向から見ても時宜にあった活動であるといえる。また、地域貢献は大学や学生が今後学びを続けていくうえで重要な要素あることも踏まえると、本活動はその両面から見て学生の良い経験になると考える。



知立市は令和 3 年 5 月 21 日に「SDGs 未来都市」に選定された。この事実を受け、知立市が SDGs をさらに推進していくために、課題や解決策を大学生の視点から提言し、大学生の社会参画を目指す。

具体的な活動としては、まず提言先の知立市から学習の機会をいただき、知立市役所職員の方からお話を聞き、知立市が行う SDGs 推進のための取り組みや地域の課題等の理解を図った。そして、さらに学びを深めるために知立市が主催する「産官学連

携による SDGs カードゲーム研修」に参加した。これらに加えて我々が自身で調べた内容も踏まえて、知立市のもつ未来像と、我々学生が持つ知立市のイメージ（強み、弱み）等を整理し、すでに先行して SDGs 未来都市の認定を受けた自治体の中で知立市が参考となるような自治体をピックアップした。

今回、我々は仙台市をピックアップし、実施調査を行った。現地でのヒアリング調査等を行い、知立市に活かせる施策を考える参考にさせていただいた。

最後に、知立市への提言の場として知立市が主催した「SDGs アイデアコンテスト」に参加し、知立市が SDGs を達成するための政策提言を行った。

2. 実施状況

2021 年 7 月 12 日に知立市企画政策課の職員の方から SDGs 未来都市および知立市の計画についてのお話を伺った。特に外国人との共生が課題であることや人口減少、転出超過について学んだ。知立市の課題と対策についてグループディスカッションを行った。

知立市役所訪問の様子



同年 10 月 7 日に知立市役所を訪問し、

知立市が行う SDGs 推進のための取り組みや地域の課題等の理解を図った。

また、同日に「産官学連携による SDGs カードゲーム研修」に参加した。SDGs の活動目標はもちろんのこと、予算や資源など多角的な視点から政策しなければならないことが体感できるシュミレーションゲームであった。

SDGs カードゲーム研修の様子



同年 12 月 6 日に仙台市役所を訪問し、仙台市が行う SDGs 推進のための取り組みについてヒアリングした。仙台市の SDGs に関する取り組みを事前に学習し、質疑応答を重ね理解を深めた。仙台市は防災に関する取り組みが盛んであった。

仙台市役所訪問の様子



その後、2022 年 1 月 24 日まで毎週月曜日にゼミのメンバー内で話し合いを重ね、同年 1 月 30 日に知立市役所にて行われた「SDGs アイデアコンテスト 2021」に向けて準備をした。私たちが参加した「SDGs アイデアコンテスト 2021」では知立市が SDGs をさらに推進していくための課題や解決策を大学生の視点から提言した。審査の結果、最優秀賞を頂いた。

3. 成果

知立市の課題祖総合計画及び SDGs 未来都市計画等から分析した結果、子育て世代が多く転出しており、人口の減少、少子高齢化が進んでいることが分かった。また、人口に占める外国人の割合が高く、日本語指導をはじめとした外国人の支援に関する課題が存在する。さらに調査から日本人と外国人の関係が希薄であることが示されており、多文化共生を進めるためには言語支援に限らず、交流を進めることや雇用支援の必要である。そして経済面でも、知立市の経済は衰退傾向であり、産業と人口には関連性があるため、両者への対策が必要だと判断した。

これらの課題を解決するために、「SDGs アイデアコンテスト 2021」では日本語教室の充実とスポーツ大会の開催を提案した。日本語教室においては、知立市が行っている既存の日本語教室の内容の改善、実施日、実施個所の増設、関係者の協力により充実化を図ることなどを提案した。日本語教室は、他の行政サービスを利用するきっかけづくりや「日本語を学びたい」という外国人のニーズに応えられる、新しいコミュニティを作ることができるなど様々な効果が得られると考えられる。コスト面の計画においても綿密に立てた。スポーツ大会においては、知立市民が国籍を問わず交流を行うためや健康増進を目的として、多様な競技が行えるよう提案した。

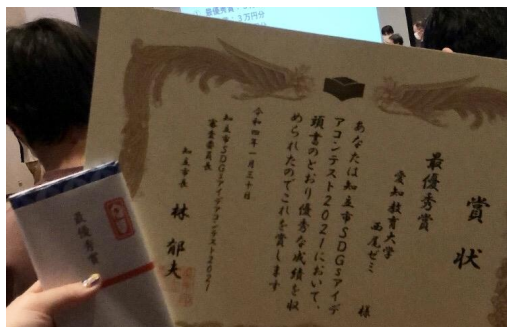
SDGs コンテストの様子



これらのイベントを通し、外国人のニーズである、日本語を学ぶ場や日本人と交流する場を提供することで、SDGs の目標の 11 にあたる日本人外国人共に住みやすく、持

続的な発展が可能な街づくりを目指す。この提案では SDGs の 17 の目標のうち、3 の保険、4 の教育はもちろん、経済・環境面の目標達成につなげることができると考えた。審査員の方から評価していただき最優秀賞を取れたことは今まで取り組んできたことが認められたようだった。この評価は愛知教育大学のホームページにも掲載されている。（https://www.aichi-edu.ac.jp/pickup/2022/02/17_010447.html）

最優秀賞の賞状



4. 今後の展望

今年度は「SDGs アイデアコンテスト 2021」へ参加し、知立市が目指す地域像を資料に基づく現状を踏まえて提言する活動を行った。また、その中で仙台市役所への訪問を行い、知立ではない SDGs 未来都市の活動について現地でのヒアリング調査を行った。現地での調査の中で、地方自治体の政策について政策を実施することと、政策の目的を達成することとの間に大きな意識のギャップが存在することがわかった。SDGs を推進するための政策を主催する地方自治体と、政策に参加する地域住民の意識の違いが存在し、地方自治体の主催するイベントに参加する人がある程度固定化されており、SDGs に興味がある人だけがイベントに参加するような現状にあるという貴重なお話を仙台市役所職員の方からいただいた。

そこで、次年度以降の活動方針として、より地方自治体と地域住民の関係性をより密接なものとするような活動を行っていきたいと考える。地方自治体が主催する

イベントへの参加者が固定化されていることを改善するために、イベントへのハードルを下げる必要があると考えたからである。地域住民が地方自治体に対して思っていること、生活の中で困っていることなどを気軽に話すことができるような場の提供が必要であると今年度の活動を通じて実感した。そこで、地域住民と地方自治体職員及び議会議員のような地方政策を執行する立場の人々が直接会って話をするような場面を提供できるように活動を行っていきたい。この点において、学生が中心となって活動を行うことで、地方自治体と地域住民の政治的意見の直接的な衝突を避ける緩衝材としての役割を担うことができると考える。また、学生の主催するイベントであれば地域住民がイベントへ参加するハードルが下がる効果も期待できる。

知立市役所のイベントの様子



今年度は活動内容の中心に SDGs を選択した。SDGs に関する地方自治体の活動は非常に興味深く、今後も注目されて続ける分野である。また、SDGs に関しては知立市から「SDGs アイデアコンテスト」について継続して開催していきたいとの旨が知立市市長より発表されている。故に、先に述べたような活動の他、SDGs に関しての活動を行っていくことも考えられる。そのような場合は、今年度の学習を踏まえて実現可能性と地域の現状に沿った SDGs の活動を知立市へ提言していきたい。

5. 決算

予算：400,000 円, 残額：3,647 円

費目	支出額
○備品	
・変換ケーブル	10,730 円
・プロジェクター	44,000 円
・延長コード	4,450 円
・パルプボード	4,890 円
小計	64,070 円
○消耗品	
・トナーカートリッジ	41,000 円
・USB メモリー	87,100 円
・ホッチキス	1,445 円
・ホワイトボードイレーザー	1,243 円
・ホワイトボードマーカー	1,320 円
・マグネット	495 円
小計	132,603 円
○旅費	33280×6
・6 人分	199680 円
小計	199,680 円
○謝金	
・(支出なし)	0 円
小計	0 円
○その他	
・(支出なし)	0 円
小計	0 円
合計	396,353 円

6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	4	酒井愛実	教育ガバナンスコース
2	4	鈴木悠人	教育ガバナンスコース
3	4	三治雅人	教育ガバナンスコース
4	4	横井武志	教育ガバナンスコース
5	4	石井大貴	中等社会
6	4	川崎要	中等社会
7	3	神谷翼	初等社会
8	3	松本和也	中等社会
9	3	定藤穂花	教育ガバナンスコース
1 0	3	野村遥稀	教育ガバナンスコース
1 1	3	増田真哉	教育ガバナンスコース
1 2	3	陸浦佑介	教育ガバナンスコース